

# 骨粗しょう症治療と歯科

# えがお



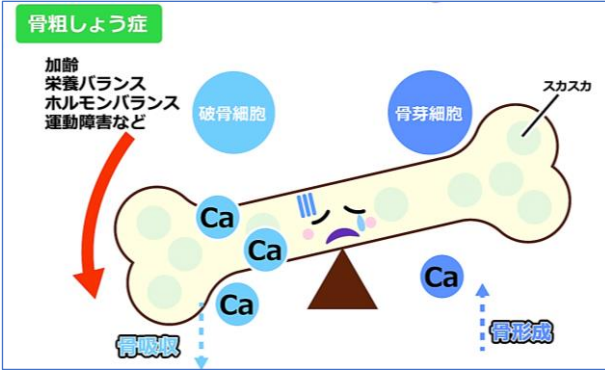
骨粗しょう症とは



骨粗しょう症は、骨密度が低下し骨がもろくなるために骨折しやすくなる病気です。高齢者では骨折をきっかけに要介護状態になることも多く、骨折の予防は日常生活において非常に大切です。

骨は骨芽細胞による形成(新しい骨を作る)と、破骨細胞による吸収(古い骨を壊す)を常に繰り返して新陳代謝しています。

この代謝のバランスが崩れると骨吸収が上回り骨密度の低下を来します。このような病態が骨粗しょう症です。



骨粗しょう症の要因の一つは、骨芽細胞を活発にし新しい骨を作る女性ホルモンであるエストロゲンが、閉経後激減し、骨形成が抑えられることにあります。

その他カルシウム不足や、カルシウム吸収に必要なビタミンDの不足、さらに、骨に適度な負荷をかけることで骨形成を促す運動の不足も、骨粗しょう症の要因となります。

## 骨粗しょう症治療薬

骨粗しょう症の治療は主に薬物療法で、次の三つに分類されます。

- ①骨吸収を抑える薬
- ②ビスホスホネート (BP製剤) 破骨細胞の機能を止める
- ③テノスマブ (抗RANKL抗体) 破骨細胞の分化を止める

骨の新陳代謝を促し古い骨を吸収し新しい骨を作る

↓商品名：テリポン他 (注射薬) 治療期間2年

②ロモソズマブ (抗スクレロシン抗体) 休んでいる骨芽細胞を活性化させ新しい骨を作るが古い骨は吸収しない ↓商品名：イベニティ (注射薬) 治療期間1年

③その他：ビタミンD製剤、ビタミンK製剤、カルシウム製剤等

編集・発行  
【年4回季刊紙】

西東京生協歯科  
〒202-0001  
西東京市  
ひばりが丘  
2-6-29  
Tel :  
042-439-0071  
fax :  
042-439-0085

診療内容  
かかりつけ歯科医  
小児歯科  
訪問歯科  
歯科口腔外科

## 顎骨壊死に対する 近年の対応

骨粗しょう症の薬物療法を始める際、少なくない先生が歯科治療における注意を記した小冊子を配布しています。

これは、歯科で抜歯などの外科的処置の後、骨の傷の治癒に時間を要し粘膜が覆われない状態(顎骨壊死)になることがあり、骨粗しょう症治療薬との関連を指摘されていた為です。確かに、治療薬の内、骨吸収を抑える薬は骨の代謝を止める効果があり、長期使用でまれに顎骨壊死が起きるのです。

しかし、最近の研究では飲み薬で顎骨壊死が起きる確率は0.1%未満と低く、歯科医師から外科処置前の休薬を依頼することは、ほとんどなくなっています。



えがおはこちらからHPでも見られます!

## お薬についての 自己判断は…

しかし、いまだに、顎骨壊死の心配からご自身で、治療薬を休んでしまう方がおられます。

骨粗しょう症の治療も、歯科治療についても、決して自己判断をしないようにしましょう。

安心安全の歯科治療のために

このように、治療前にお体の状態や使用中のお薬を把握することは、安心安全な歯科治療に欠かせません。骨粗しょう症やガンに限らず、何か使用中のお薬がある方、又、お薬に変化が生じた方は、お薬手帳のご提示にご協力お願いします。

(西東京生協歯科)  
副所長・飯村みゆき





# 開設から十年

## ① 歯科医師のバトンリレー

西東京生協歯科は2015年3月に開設し、この3月で10年目を迎えました。当時は歯科医師1名、歯科衛生士2名、歯科技工士1名、事務2名とわずかなスタッフで歩みを開始しました。

初代所長の飯村先生は、それ以前は、法人内のみその歯科で非常勤医師として勤めていました。みその歯科の前所長である会沢先生から要請を受け、西東京生協歯科の所長に着任し、2022年8月までつとめあげました。患者さんのお話にじっくり耳を傾けられる飯村先生は、今も多くの患者さんに慕われます。翌9月からは副所長として、現所長の小石先生をサポートしています。

開設当初から現在に至るまで、水曜日午前には会沢先生の外来診療があります。所長に着任したばかりの飯村先生にとって、歯科医師としても管理者としても経験豊富な会沢先生の存在は心強く、診療はもちろん、事業所の運営面でも支えてきてくれました。

診療室ではいつも和やかに患者さんとコミュニケーションをとっておられ、患者さんとの笑い声が聞こえてきます。



診療後のミニカンファレンス  
(左から飯村医師・相川衛生士・小石医師・会沢医師)

2022年9月に飯村先生からバトンを受け取り、所長に就任した小石先生は、2017年にみその歯科から異動。みその歯科が近所で通いやすくて、西東京生協歯科まで足を延ばし、小石先生にかけ継ぎ続ける患者さんもいらっしやいます。

所長に着任後は、外部の研修に積極的に出席し、現場の診療に生かせるよう目下奮闘中です。現在は、常勤医師2名、非常勤医師9名(常勤換算3.5名)が在籍し、外来・往診共に力を合わせて医療活動に取り組んでおります。

お口の中でお困りのことがありましたら、西東京生協歯科までご相談ください。

(西東京生協歯科

・事務・猪股あかね)

# ほっとひと息のコーナー

皆さんは日本三大夜桜の名所「高田城址公園」を知っていますか。新潟県上越にあり、徳川家康の六男・松平忠輝公の居城として築城されたことにはじまります。公園の面積は約50ヘクタールと、全国的にも有数の規模の都市公園です。

現在は公園やその周囲に4000本の桜の木が植えられ、見頃の時期には、夜のライトアップがなされ、昼間とは違う姿を現します。関東より少し開花は遅く、4月中旬頃に見頃を迎えます。

夏には蓮の花を見に多くの人が公園を訪れます。外堀には桃色や白色の蓮が入り混り、世界でも珍しい蓮花群(れんげくん)が見られます。

東京からは気軽に行ける距離ではありませんが、一度は見に来ていただきたい見事な景色です。

(新潟出身・歯科技士・平山幸治)



上越市公式HPより掲載

## 西東京市の健診実施 指定 歯科医療機関になりました

### 西東京市民の皆さまへ

西東京生協歯科は4月に西東京市歯科医師会に入会し、西東京市の成人歯科健康診査を受診できる医療機関となりました。

『いつまでも自分の歯で噛めるように、定期的に歯科健診を受けましょう』と西東京市HPでも呼びかけられています。

お口の健康は全身の健康の入り口！ぜひご利用ください。

**※最後の受診から1年経過し初診の方は、初診料を西東京市歯科健診で対応いたします。**



健診対象者：18歳以上の西東京市民／実施期間：6～11月末(申込期間：4/15～10/31)

申込方法：電子申請、郵便はがき、市役所窓口にて申込。

(※2025年3月末時点で25、30、35、40、45、50、55、60、65、70歳の方は申込不要。詳細は西東京市・健康課まで)

[こちらから西東京市公式HP・歯科健康診査ページ➡](#)

